

又

～ガスのある東京の暮らしを見つめて～ 昭和モダンの軌跡

エイトの描く

生誕140年記念ノエル・又エイトと東京ガス



2025
1月11日(土) 3月30日(日)

但し、1月13日・2月24日(月・祝/振休)は開館、翌1月14日・2月25日(火)は休館

10時から17時 月曜休館 入場無料

会場：ガスミュージアム「ガス灯館」2階ギャラリー

「ガスのある 東京の暮らしを 見つめて」

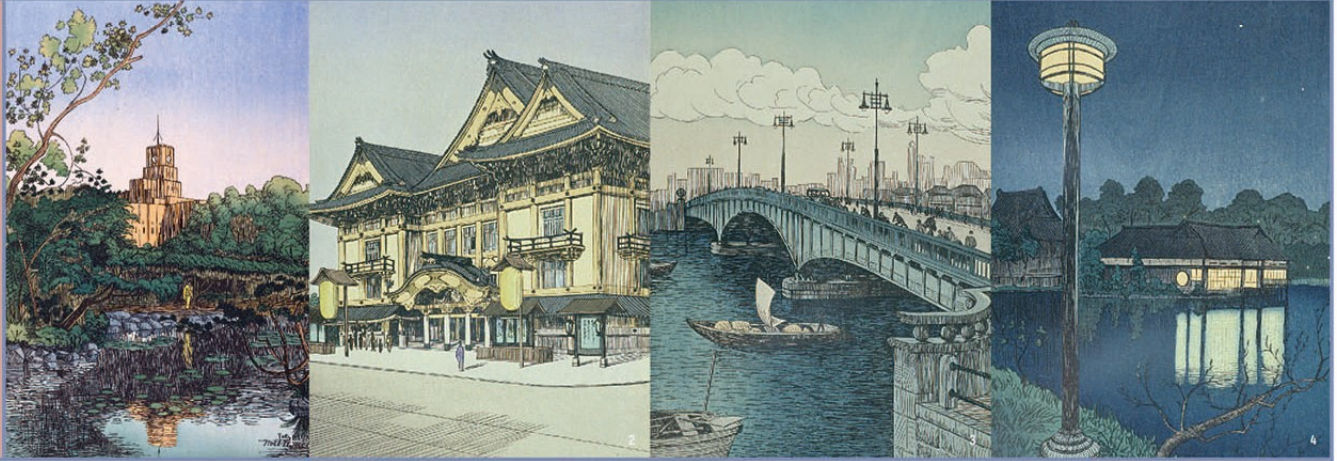
明治18年(1885)3月30日、フランスのブルターニュに生まれたノエル・ヌエットは、パリで詩人として活動する中で、フランス語の個人教師として日本人留学生との交流から、日本へ興味を抱くようになり、ました。

大正15年(1926)の最初の来日は、静岡でフランス語教師として過ごしました。一旦母国に帰国したヌエット氏ですが、昭和5年(1930)に再来日を果たしました。それ以後、昭和37年(1962)に帰国するまでの30年余り、フランス語教師として大学で教鞭をとる傍ら、戦前・戦後の東京の風景を見つめ、その様子をスケッチや版画、詩や随筆などで表現しました。

特に昭和初期の東京の姿は、ヌエット氏にとって「古きもの」と「新しきもの」が並び立つ風景に映り、羨望と好奇心を持って東京各所を巡り、携えたペンでスケッチや文章で記録しました。ヌエット氏の記録は、昭和初期の1920〜30年代に花開いた、和洋折衷の近代東京の都市市民文化の姿を伝えてくれます。

今回の展示会では、ヌエット氏が戦前の東京を記録した版画を中心に、同じく140年を迎える東京ガスが支えた当時の都市生活を象徴する、ガスのある暮らしを記録した写真と共に、当時の絵はがきや生活道具などから、昭和のモダンな風景を紹介いたします。

又エットの描く東京



ノエル・ヌエット氏 略歴

明治18年(1885)3月30日、フランス北西部ブルターニュ地方のモルビアン県ヴァンヌ市北方に位置するロクミネで、医者である父アンジュと母マリの長男として生まれる。

明治43年(1910)に初めての詩集「葉がくれの星」を出版。詩人としての活動の傍ら、滞仏中の日本人との交流を持つ。大正15年(1926)に静岡高校講師として来日。

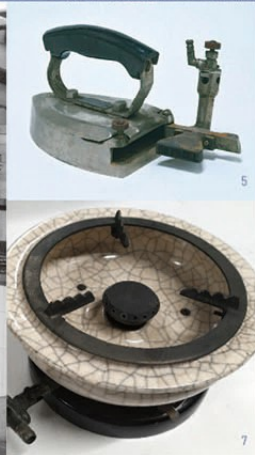
昭和4年(1929)に一旦帰国するも、翌年に再び来日して東京外国語学校講師に就任。その後東大、早大、アテネ・フランセなどで教鞭をとる傍ら、滞日中に東京各所をまわり、その風景をスケッチや詩にうたい、詩や随筆、画集を著す。

昭和37年(1962)に帰国してパリに居住。昭和40年(1965)に東京都名誉市民となる。

昭和44年(1969)9月30日にパリで逝去。享年84歳



ガスのある暮らし



- 1 東京風景 日比谷 ノエル・ヌエット 昭和11年(1936)
- 2 東京風景 歌舞伎座 ノエル・ヌエット 昭和11年(1936)
- 3 東京風景 両国橋 ノエル・ヌエット 昭和11年(1936)
- 4 東京風景 不忍池 ノエル・ヌエット 昭和11年(1936)
- 5 ガスアイロン 昭和初期
- 6 日本橋浜町の料理店調理場風景 昭和12年(1937)
- 7 ひびき七輪 昭和8年(1933)
- 8 ノエル・ヌエット氏近影 昭和17年(1942)
- 9 震災復興公園 昭和初期
- 10 絵葉書 日本橋 白木屋 昭和初期
- 11 絵葉書 東京駅 昭和初期

生誕140年記念 ノエル・ヌエットと東京ガス



昭和モダンな風景



1月13日〜2月24日
夜紙休日は開館 翌1月14日〜2月25日(火)は休館
11日(土) 3月30日(日)

ガスミュージアム GAS MUSEUM がす資料館

〒187-0001 東京都小平市大沼町4-31-25

TEL 042-342-1715

開館時間 10:00-17:00

月曜休館 入場無料

<https://www.gasmuseum.jp/>



公式Instagram @gas.museum

バス 西武池袋線 東久留米駅西口より[武21]錦城高校前経由
…武蔵小金井駅行き 西武バス「ガスミュージアム入口」
バス停下車徒歩約3分
西武新宿線 花小金井駅北口「花小金井駅入口」バス停より、
またはJR中央線 武蔵小金井駅北口より[武21]錦城高校経由
…東久留米駅西口行き 西武バス「ガスミュージアム入口」
バス停下車徒歩約3分
徒歩 西武新宿線 小平駅より徒歩約20分(2km)
車 新青梅街道 滝山南交差点角 ※駐車場無料

